

8. 天王祭の流れ

名古屋の町における天王祭には二つの流れが見受けられる。

一つは那古野神社の祭礼にみる京都祇園会の流れである。もう一つは津島神社の流れである。

那古野神社の天王祭は、車楽・山車・警固・神輿をだし、京都祇園社の御霊会の影響を受けた祭礼である。

一方、津島神社の流れの中でも、水辺の天王祭と町々の天王祭に分けられる。

前者は天王崎天王社(洲崎神社)や熱田南新宮社など、津島祭の御神事の影響を受け「神葎流し」が行われ、車楽船(巻藁船)が出される祭礼である。

後者は町々が屋根神様や小社を拵え、牛頭天王を祀り、無病息災を祈る。このお社を「お天王さま」と呼ぶ。

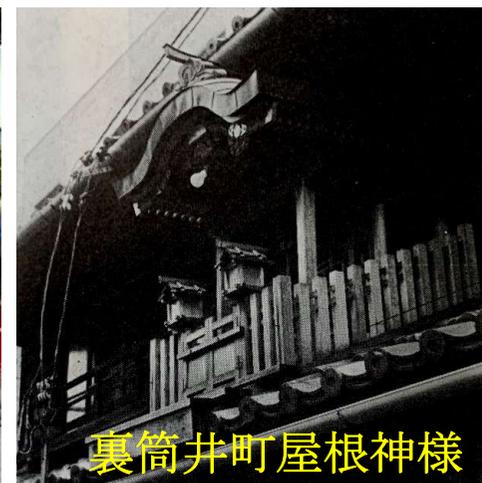
名古屋に現存する山車祭りの多くはこの「お天王さま」の祭礼である。

天王祭は始め、祭りの期間中だけ小さな祠を拵え、津島神社の御札を祀り、天王祭を行っていたと考える。

町々の代表者が津島神社へ参拝し、小さな祠や屋根神様に御札を祀る。これを「津島代参」と呼び、牛頭天王信仰の原点とも言える。



筒井町天王祭



裏筒井町屋根神様